

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の分析

豊後大野市教育委員会

1. 全体結果より

市としての目標値……平均正答率において、全国平均を上回る

(1) 小学校

○算数、理科において目標値である全国平均正答率を上回った。(国語：－0.8ポイント)

(2) 中学校

○国語、数学、理科ともに、全国平均値を上回ることができなかった。

○特に数学において全国との差が大きい。(数学：－7.3ポイント)

(3) 全体的総括

○小学校において、一定の成果が出ている。

○中学校では、特に数学の授業改善、指導内容や指導方法の改善を行う必要があることが伺える。※教師が教える場面と子どもが考える場面を明確にした単元構成の工夫。

○小学校、中学校ともに記述問題に対する無回答率が高い。授業中の記述する機会の減少や記述問題に対する苦手意識が考えられるため、記述する機会を増やす必要がある。※リアルとデジタルの最適な組み合わせの工夫。(1人1台端末の効果的な活用及び各活動の機会の保障)

○家庭学習の習慣をつけ、学習時間の確保が必要である。

○読解力をつけるためにも、読書の楽しさへの工夫が必要である。

2. 各教科の概要

(1) 小学校について

①国語 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

観点	市正答率	全国正答率
A 話すこと・聞くこと	63.1	66.3
B 書くこと	68.9	69.5
C 読むこと	56.8	57.5
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	76.9
(2) 情報の扱い方に関する事項	60.1	63.1
(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.3	81.2

●正答率が全国平均を下回っている問題 (7/14)

②算数 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

観点	市正答率	全国正答率
A 数と計算	65.0	62.3
B 図形	58.8	56.2
C 測定	56.1	54.8
C 変化と関係	55.4	57.5
D データの活用	63.7	62.6

●正答率が全国平均を下回っている問題 (6/16)

③理科 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

観点	市正答率	全国正答率
「エネルギー」を柱とする領域	50.0	46.7
「粒子」を柱とする領域	51.6	51.4
「生命」を柱とする領域	56.7	52.0
「地球」を柱とする領域	69.3	66.7

●正答率が全国平均を下回っている問題 (5/17)

(2)中学校について

①国語 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

観点	市正答率	全国正答率
A 話すこと・聞くこと	52.6	53.2
B 書くこと	51.9	52.8
C 読むこと	59.6	62.3
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	46.4	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項		
(3)我が国の言語文化に関する事項		

●正答率が全国平均を下回っている問題 (8/15)

②数学 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

観点	市正答率	全国正答率
A 数と式	34.1	43.5
B 図形	40.4	46.5
C 関数	42.9	48.2
D データの活用	52.7	58.6

●正答率が全国平均を下回っている問題 (15/16)

③理科 領域ごとの全国平均正答率と市平均正答率

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率(%)			問題の難易度
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	豊後大野市	大分県	全国		
1 (1)	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				41.4	49.2	51.9	5	
1 (2)	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) ㊦			55.4	46.4	46.2	5	
1 (3)	霧頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (7) ㊦	40.5	34.1	36.2	5	
1 (4)	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(3) (7) ㊦		34.2	33.0	29.7	5	
1 (5)	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる		(4) (7) ㊦			42.3	41.1	44.9	4	
1 (6)	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる		(2) (7) ㊦			77.9	74.5	79.4	3	
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ㊦				9.5	9.8	14.0	5	
2 (2)	ストローの太さと音の高低に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ㊦				91.2	91.6	94.6	2	
3 (1)	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ㊦				25.0	34.5	34.9	5	
3 (2)	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ㊦				96.4	84.8	85.2	2	
4 (1)	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる		(2) (7) ㊦			68.4	53.9	50.4	4	
4 (2)	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(2) (7) ㊦			96.5	91.0	92.8	2	
5 (1)	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る		(2) (7) ㊦			92.7	91.6	93.0	1	
5 (2)	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる		(4) (7) ㊦			36.0	34.0	35.6	4	
6 (1)	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる			(1) (7) ㊦		64.3	68.2	65.9	4	
6 (2)	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる			(3) (7) ㊦		67.9	50.3	41.9	4	
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる			(3) (7) ㊦		38.6	35.2	34.8	5	
7 (2)	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(4) (7) ㊦	(3) (7) ㊦		57.9	54.2	51.6	5	
8 (1)	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる				(2) (7) ㊦	42.4	41.7	42.2	4	
8 (2)	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる				(2) (7) ㊦	18.8	18.2	18.1	5	
9 (1)	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる				(4) (7) ㊦	27.7	26.4	31.8	5	
9 (2)	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる				(4) (7) ㊦	53.3	60.4	58.1	4	

●正答率が全国平均を下回っている問題 (10/22)

3. 今後の取組について

(1) 確かな学力の育成について

2025年度の学力向上の方針は、以下の点を重点に取り組んでいる。

- ・学びに向かう集団づくり
- ・思考力・判断力・表現力
- ・生きて働く知識・技能

① 「学びに向かう集団づくり」について

学級集団（学年集団）で学ぶ環境ができているか、今後点検する必要がある。1学期を振り返り、2学期に向けて具体的な取組内容を提示する。

- ア．発表の仕方やグループ学習のあり方等、授業中の過ごし方について見直す。
- イ．学びに向かう姿を可視化し、児童生徒に取り組ませる。

② 「思考力・判断力・表現力」について

生活力の基礎となる「思考力・判断力・表現力」が不足していることは、今回の調査についての「活用」の結果で明らかである。

- ア．日常生活の知識と体験活動の知識、そして学習内容の知識を活用し、課題解決を図っていく。そのような思考回路の多面化が習慣化できるよう、意図的に学習の中に仕組む。
- イ．自分の考えを相手に伝える場面を多く経験させる。そのため、グループ学習でプレゼンを多く取り入れ、ディベート学習を用い、自己主張をさせる。また、発言の根拠を明確にする習慣を各教科で身につけさせる。
- ウ．家庭学習を充実させるために、学習スケジュールを定め、習慣化できるよう目標設定を行う。また、定期的に自己評価を行い、自分自身の理解度を確認させる。

③ 「生きて働く知識・技能」について

知識を使う経験の積み重ねが、生きて働く力と変わっていく。学んだ内容を活用する場面を設定し、単なる知識ではなく、使える力が必要となる。そのためには「わかった授業」を目指した授業改善が必要である。

- ア．教師が教える場面と子どもが考える場面を明確にした単元構成にする。
- イ．1人1台端末の効果的な活用及び書く活動を保障する。
- ウ．小学校高学年における教科担任制を推進する。
- エ．校内研修や互見授業等、組織的な授業改善を推進する。

【 豊後大野市 】

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では 83.7%と、県平均（81.5%）全国平均（80.3%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との問いに対して、本市では 90.1%と、県平均（86.4%）、全国平均（84.9%）よりも肯定的に回答した児童が多い。
- ・「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した児童は、本市では 55.9%と、県平均（44.3%）、全国平均（46.7%）よりも肯定的に回答した児童が多い。

生徒質問調査

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との問いに対して、本市では 74.1%と、県平均（76.9%）全国平均（77.7%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。
- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」との問いに対して、本市では 90.7%と、県平均（85.9%）、全国平均（84.7%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。
- ・「授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した生徒は、本市では 62.0%と、県平均（60.8%）、全国平均（53.2%）よりも肯定的に回答した生徒が多い。

2 豊後大野市の児童・生徒質問調査の調査結果をふまえて

本市では、主体的・対話的で深い学びについて、「学びに向かう集団づくり」が重要であると考え、以下の点を中心に継続して取り組むことにする。

- ①発表の仕方やグループ学習のあり方等、授業中の過ごし方について見直す。
- ②学びに向かう姿を可視化し、児童生徒に取り組ませる。
- ③日常生活の知識と体験活動の知識、そして学習内容の知識を活用し、課題解決を図っていく。そのような思考回路の多面化（多角化）が習慣化できるよう、意図的に学習の中に仕組む。
- ③自分の考えを相手に伝える場面を多く経験させる。そのため、グループ学習でプレゼンを多く取り入れ、ディベート学習を用い、自己主張をさせる。また、発言の根拠を明確にする習慣を、すべての教科で身につけさせる。

【 豊後大野市 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との問いに対して、「そう思う」と回答した学校は、本市では 27.3% {県平均 (31.6%) 全国平均 (22.5%)} であった。

・「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」との問いに対して、「そう思う」と回答した学校は、本市では 18.2% {県平均 (18.9%) 全国平均 (13.9%)} であった。

・「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した学校は、本市では 100% {県平均 (59.9%) 全国平均 (52.2%)} と高い。

中学校：学校質問紙

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

・「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」との問いに対して、「そう思う」と回答した学校は、本市では 28.6% {県平均 (28.8%) 全国平均 (21.0%)} であった。

・「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」との問いに対して、「そう思う」と回答した学校は、本市では 0% {県平均 (19.5%) 全国平均 (16.8%)} であった。

・「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」との問いに対して、「ほぼ毎日」「週 3 回以上」と回答した学校は、本市では 71.4% {県平均 (79.7%) 全国平均 (52.3%)} と高い。

2 豊後大野市の学校質問調査の結果をふまえて

・「自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した小学校が 27.3%、中学校が 28.6% という結果から、自主性を育てるために、問題解決型学習や生徒が自分で課題を設定し、それを解決するための活動を設定する必要がある。

・「自らの考えがうまく伝わるよう、発言や発表を行うことができている」と回答した小学校が 18.2%、中学校について 0% という結果から、発言・発表スキルの向上を目指すために、ディベートやプレゼンテーションを通して、意見をまとめたり、発表したりする機会を増やす必要がある。

・「ほぼ毎日」「週 3 回以上」ICT 機器を使用しているという結果は、児童生徒が ICT 機器を活用して学習していることが伺える。今後も自主性や発言・発表スキルの向上につながるような活用方法を模索し、取り組んでいく。